

みらいの
おとなたちへ。



KITAONJI WORKS JAPAN

みらいの おとなたちへ。



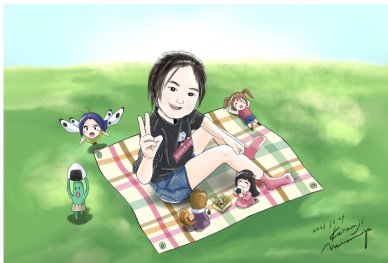
いま あなたは
パパや ママと たのしく
くらしていますか？



みんなで おいしいものを
いっしょに たべたり——







こうえんや ゆうえんちで
たのしく あそんだり——





みんな しあわせそうに
みえるかも しれませんが…

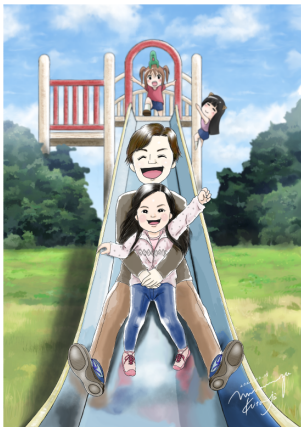


2022.08.11
Fumiyuki
Furuya's

じつは このほんの かぞくは
たまにしか あえないのです



きめられた じかに
みじかい あいだしか あえないのです



だから あえたときには
みんな えがおで うれしそうでも——



www.kartun.com
Kartun.com
Kartun.com

おわかれを するとき
みんな さびしそうな かおをします



2022.03.9
Munimura
Kunagi

みらいの おとなたち——

それは いまは まだ こどもである
あなたたちの ことです



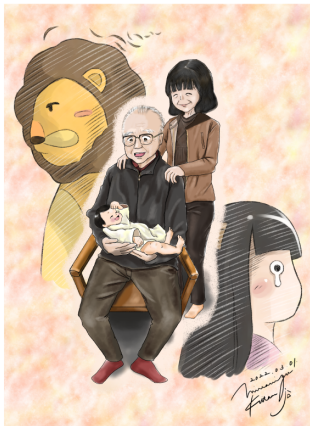
いまの おとなたちでも
なかなか かえることの できない
この せかいを



2011. 3. 4
Kutanjo

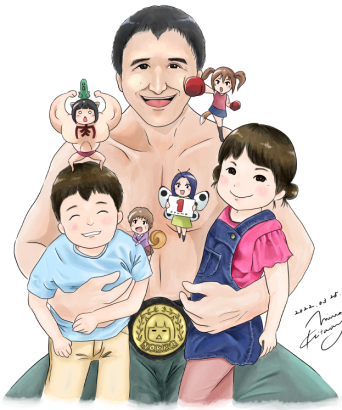
どうか みんなの ちからで
かえていって ほしいと
おもいます。







2022.02.24
Kuranjo
Munaga



2022.03.25
Munamigo
Kitsunejō

本書にイラストとして描かれた方々は、本文にもある通り

「たまにしが自分の子供や孫に会えない」「全く会えない」

といった方々である。

匿名希望の方を除き、巻末にクレジットさせて頂いた。

これを書いている2022年現在の日本では、離婚後に片方の親が子供に会わせない、所謂「片親疎外」が横行している。

これは他の先進国では「ありえない」行為であり、日本においても共同親権（※日本は類まれなる単独親権国家）への法制審議や子の「連れ去り」に対する刑罰の見直しも進んでいる。

単独親権下では、どうしても母親に親権が行きがちなので本書のイラストも必然「ロンリーな父親」ばかりである。

フランス人であるVincent Fichot氏は、日本人女性との間に子を授かったが、一方的な「子の連れ去り」によって、親子は断絶されてしまった。

そしてその事態を重く受け止めたパリ市警は、彼の妻に異例の逮捕状を出すまでに至ったのである。

「日本人とは結婚するな」

これが今、世界中で囁かれはじめているのだ。

知らぬが恥、と言っても過言ではない。



1990年にユニセフが国際条約として発行した「子どもの権利条約」というものがある。これには日本も入っているはずなのだが、その第九条である「親と引き離されない権利」は、遵守されていない。

その結果、私と共に活動していた同胞も、絶望から命を絶ってしまった。

「会いに来ないのではない。会わせてもらえないのだ」

こんなこと、子供に伝えられるわけもない。

人類は今、ウイルスや侵略戦争といった「悪い夢」に苛まれている。

21世紀になっても、私達が子供の頃思い描いていた世界が訪れることはなかった。

子供とは未来であり、希望そのものである。

この絵本に目を通し、今の子供達はどう感じるのか。

最後のページの「いまのおとなたち」からの願いを、どのように受け止めてくれるのか。

作者として、一人の親として、興味のあるところだ。



2021.9.22
Kutani

「みらいの おとなたちへ。」

2022年8月24日 初版発行

TEXT

KITAONJI

ILLUSTRATION

KITAONJI / MINAMI MIZUKAMI

COLLABORATOR

M.Yamauchi

Momo's Papa

K.Ohta

H.Takagiwa

T.Takahara

T.Ohhashi

S.Sayama

KAZU

K.Watanabe

R.Miyamatsu

Vincent Fichot

Claude Fichot

K.Kaneko



▶ ホームページにアクセスして
最新情報をチェック!!



©2022 KITAONJI WORKS All Rights Reserved.

